

落とし還元焼成の製品化支援

【開発の背景】



図 1 (左) 新製品 (右) 既存製品

Bon 窯 (ぼんよう：稲吉善光氏) は、当センターの人材育成研修を修了後に開業して 16 年、都内の専門店などで取り扱いがある陶芸作家の工房です (ゆたり出版『かさまのうつわ』P27～32)。土や釉薬については、自社で技術開発されていましたが、焼成技術による品質向上が課題でもありました。

そこで主力製品の飲食器に、自社独特のシックな風合いを付加したいという希望のもと、今年度開催した「やきもの焼成技術研究会」に参画いただきました。研究会のなかで習得したガス炉による「落とし還元焼成」によって、課題解決ができると思われました。(図 1)

【開発の経緯・支援内容】



図 2 研究会で焼成した自社用サンプル

「落とし還元焼成」とは、不完全燃焼で炉内を燻して冷却する焼成方法です。素地土がグレー・黒色がかかり、釉薬の光沢を抑えたり鉄分が斑点状に発色するなどの変化が起こります。

【センターの支援内容】

- ・「落とし還元焼成」の操作知識 (ガスバーナーの空気量や、煙突部のダンパー・ドラフト調整のノウハウ) を提供
- ・焼成データを 3 パターン提供
- ・自社用サンプルのほか、燻し方の試作サンプルを研究会において制作 (図 2)

【効果】

- ・製品のバリエーション・販路開拓の可能性が増えた。
- ・若い年齢層 (30～40 代) への訴求力向上がみられた。
- ・料理の用途がひろがり、日用だけでなくカフェなど飲食店の需要も増えた。

【開発した製品の紹介】



図 3 製品化された (左) 徳利, (右) めし碗

製品は、小岩井クラフト市 (2015. 9. 19～21) で好評を得たため、今後も全国各地のクラフトフェアや都内ギャラリーなどで広く販売されます。

価格：2,500円 (めし碗)～5,000円 (徳利) (いずれも税別) (図 3)
販売先：小岩井クラフト市、都内ギャラリー、ギャラリー舞台 (笠間市) など

○現在の主力製品がこの焼成方法で作られています。

基礎となった事業

平成 27 年度 オンリーワン技術開発支援事業 (やきもの焼成技術研究会)

現在の担当部門

工芸技術部門

部門長

尾形 尚子

TEL:0296-72-0316

主任研究員

久野 巨央